競　技　上　の　注　意

第 80 回国民スポーツ大会卓球競技北海道予選会
審 判 長　　鈴木　秀典

現行の日本卓球ルールを適用して実施する。

１．ルールの概要

- 11 ポイント 5 ゲームマッチで行う。
- ゲーム開始後 10 分経過した場合は促進ルールを適用する。但し、双方のポイント合計が 18（9－9、10－8）以上に達した場合は適用されない。
- ゲーム間の休憩時間は 1 分以内。
- タオルの使用は、6 ポイント毎と最終ゲームのエンド交換時のみ。
- サービスは、開始から打球までボールをレシーバーから隠してはならない。また、審判員が正規のサービスであることを確信できるよう行うことは、競技者の責任である。
- ポイントが決定した後は、速やかに次のサービスあるいはレシーブの体勢をとり、競技時間の遅延を避けること。

２．ボール、ラバー、ラケットについて

- ボールは日本卓球協会公認の４社（ニッタク、ヴィクタス、ヤサカ、タマス）の白色スリースター40㎜ プラスチックボールを使用する。
- 対戦する相手同士が選択したボールのメーカーが異なる場合、試合開始前にジャンケンで決定する。
- ラバーは、ラケット本体よりも大きかったり小さかったりしないこと。公認マーク、メーカー商標、ロゴ等はグリップに最も近い場所にはっきり見えるように貼らなければならない。
- ラケット本体を覆っているラバーの表面、あるいは被覆されていない本体の表面は無光沢で、片方は黒、他方は片方の黒やボールの色とはっきり区別できる明るい色とする。
- ゲーム中にラケットを破損した場合は、スペアラケットか競技領域内で手渡されたもので直ちにプレーを再開すること。
- ラケットはＪＴＴＡ、ラバーはＪＴＴＡまたはＩＴＴＦの公認マークがないものを使用する場合は、予め審判長の許可を受けること。
- ゲーム間の休憩時間中やタイムアウト中、及び許可された中断中では、ラケットはテーブルの上に置くこと。
- 公認の接着剤、シート以外の使用は認められない。試合終了後のラケット検査において不正が判明した場合はその試合は負けとなり、試合前の検査で判明した場合は別のラケットで試合すること。
- ラバーの張替えは決められた場所で行うこと。

３．競技の服装

- ゼッケンは 2026 年度（公財）日本卓球協会指定のものを使用すること。
- 競技服装はＪＴＴＡ公認マークのあるものを着用し、同じユニフォームによる対戦を避けるため、明らかに異なる色のユニフォームを２着以上用意すること。
  ユニフォームによっては、黒と濃紺や青と紫、赤とオレンジなどで似通った色の場合も交換を促す場合もある
- ヘアバンド・リストバンド・スパッツは着用できるが、（公財）日本卓球協会公認用具指定業者以外のマークが見えることは認められない。スパッツの色はショーツ、スカートと同色が望ましい。
- 肘、膝より長いアンダーウエアは着用できない。但し、容認するに足る事由がある者は予め審判長に許可を求めること。

４．アドバイスは、成年の部についてはアドバイスによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでも受けることができる。少年の部については、ゲーム間の休憩時間、タイムアウト要求時、許可された中断時のみ認められる。アドバイザーの途中交代は認めない。但し、誰も入ってないコートに途中で入ることは認める。

５．全種目とも第１次選考トーナメントは敗者審判とする。第２次選考リーグからは審判員を配置し、タイムアウト制を適用する。なお、第１次選考トーナメント準決勝から審判員を配置する場合もあるが、審判員が配置されている試合はタイムアウト制を適用する。

６．ランダムにラケットコントロール検査を行う場合がある。